

インタビュー

アイエススプリンクラー(株)

アイエススプリンクラー(株) 代表取締役

久保 政延 氏に聞く



アイエススプリンクラー(株)

本社工場 和歌山県橋本市隅田町山内 1691 番地の 5

事業内容 消火装置用機器 開発 設計 製造 及び販売

主要製品 スプリンクラーヘッド 流水検知装置等

創業 1983 年 5 月 久保政延個人として発足

1991 年 8 月 アイエススプリンクラー株式会社として法人設立

資本金 1000 万円

従業員数 12 名

販売実績 最近の代表的な採用実績

- | | |
|-------------|--------|
| ●あべのハルカス | 約三万五千個 |
| ●虎ノ門ヒルズ | 約二万五千個 |
| ●グランフロント大阪 | 約三万二千個 |
| ●阪急百貨店うめだ本店 | 約三万个 |

橋本市と奈良県の境の小高い丘にスプリンクラーヘッド業界におけるオンリーワン企業の事務所兼工場があった。広がる田園地帯の中で、衝撃に極めて強い耐衝撃型のスプリンクラーを製造していた。その技術水準においてこの業界では、ずば抜けた存在である。



「クレームゼロ」の製品づくりから 「オンリーワン」の製品づくりへ

～ グランフロント大阪、あべのハルカス、虎ノ門ヒルズも
認めたその優秀な製品力 ～

スプリンクラーヘッド業界において、その高い技術力には定評のあるアイエススプリンクラー株式会社。今号より、先進的な取り組みや全国から注目されている企業や組織のトップの方にインタビューを行い、トップが語る「現在に至る歩み」や「苦労話」、その「経営哲学」などを連載していきます。その新企画のトップバッターとして、アイエススプリンクラー（株）代表取締役 久保政延氏に創業のきっかけや経営理念、今後の販売戦略などについてお伺いしました。

Q 起業に至った経緯についてお聞かせください。

久保社長 昭和32年に堺市立の工業高校を卒業後、大阪のアルミニウム管製造メーカーに就職しました。その後退職し、再就職したのが、スプリンクラー設備メーカーの五十鈴工業（株）でした。そこで配属されたのが、クレーム処理担当部署でした。例えば、たった一個の誤作動で水浸しになり、しかも警報装置が鳴り消防車が駆けつけることも始終ありました。激怒したホテルや百貨店の担当者からはクレームの嵐。私は、日々このようなクレーム処理に追われ、なんとか誤作動のないスプリンクラーは出来ないのか。そして、そのことばかり考えるようになった矢先、勤めていた会社が倒産。それをきっかけに、東大阪市に本社を置く金属プレス製の金型製造メーカーの協力を得て創業しました。また創業するに当たり、私は橋本市出身ということもあり、ここを創業の地としました。

右図は、ボール式 耐衝撃型スプリンクラーヘッド。衝撃に強く、輸送時・施工時の衝撃や設置後の軽微な衝撃などでは、水漏れや誤作動することがない自信作。その製品の品質の高さから、あべのハルカスをはじめとした日本のトップクラスのビルで使用されている。



Q 当時、スプリンクラーの製造メーカーは何社ぐらいあったのですか。

久保社長 その当時は、スプリンクラーの製造メーカーは2社しかなく、現在でも3社しかない。すぐに製造しようと思っても、技術力とともに、国家検定を通過しなければならないことが、参入を難しくしています。

Q 御社のスプリンクラーヘッドについて、その特徴などをお聞かせください。

久保社長 スプリンクラーは人命を守る重要なものです。私は、創業当時からクレームゼロの完璧な製品をつくりたい。そういう思いで取り組んできました。ちょうど阪神大震災の時ですが、地震の揺れでスプリンクラーがほぼ全滅しました。スプリンクラーヘッドはとにかく衝撃に弱く、例えば施工工事中に落としたり、何かモノに当たったりしたら、その衝撃で施工後の誤作動や有事の際に作動しなかったりと非常に繊細な製品です。スプリンクラーが誤作動で水漏れを起こすと1分間に200リッター（ドラム缶一本分）の水が噴き出すこともあります。その結果、大変な損害が発生します。そういうことがありますので、何とか誤作動のないものにしたい。阪神大震災をきっかけに、特にそういう思いが強くなりました。衝撃に弱くなることには、明快な理由があります。それは構造上どうしても止水部まで水がきており、常に高い水圧がかかるためです。我が社は、水圧をおさえるためにベアリングボール支持構造とO型のゴム製リングを使用することで、飛躍的に耐久性を強化することができました。ここが他社に負けない、極めて衝撃に強いスプリンクラーヘッドを開発できた理由です。そしてこの規格で国家検定に合格し、特許も取っております。

右図は、CS型 流水検知装置。他のメーカーにはない軽量で、しかもコンパクト化を実現している。省スペースな作りになっており、各方面から好評を博しているという。



Q 衝撃に強いということですが、どのような出来事で、それは証明されましたか。

久保社長 東日本大震災後、福島県をはじめとしたユーザーに問い合わせをしましたが、誤作動は一件もなく、クレームもまったくありませんでした。これで益々、我々の製品に自信を深めました。

Q 現在のスプリンクラーの市場におけるシェアについて、教えていただけませんか。

久保社長 現在は、3社で市場を占有しています。一番大手が、関東のメーカーで約7割のシェアを占めており、残りの3割を当社ともう1社で分け合っている状況です。何とかこの状況を打開したいと思い、いろいろと販売戦略を考えているところです。建築現場の下請け孫請け等の“川下”からの営業だと価格競争になってしまい、品質の高い当社の製品では、価格では不利になってしまいます。そこで“川上”、すなわち施主にこの製品の優秀さを認めてもらい、採用を決定してもらおうと取り組んできました。その一つの成果が、グランフロント大阪、あべのハルカス、虎ノ門ヒルズということです。

Q 今、お話に出たグランフロント大阪、あべのハルカス、虎ノ門ヒルズ、阪急百貨店といった日本のトップクラスの高層ビルやオフィス商業ビル、ホテルなどに採用されていますが、どのような営業をされたのですか。

久保社長 最初の頃は、事実上の購入決定権を持っている工事会社に営業をしていたのですが、スプリンクラーの国家検定基準をクリアしていれば、どこの製品を購入しても良いことから、安い製品の方が良いということになります。これではダメだということで、工事会社には営業をせず、“川上”に当たるゼネコン、デベロッパー、建築主に営業を始めました。ハルカスなどは、近鉄百貨店の方や近畿日本鉄道の方が弊社まで来てくれて、実際に実験を見てもらって採用を決定してくれました。今後も“川上”を主体に営業展開していきたいと思っています。

Q 御社の経営理念についてお聞かせください。

久保社長 “創造と努力”という言葉掲げております。衝撃に強いスプリンクラーにするためには、今あるやり方・技術では難しい。私はもともと技術屋なので、構造上の課題や解決策については、理解していた。そこでやり方、原理を変えることで、衝撃に強いものにすることができると考え、努力に努力を積み重ねやってみりました。発明王のエジソンが言う通り1%のひらめきと99%の努力だと思います。そしてもう一つは、できるだけ社員本人たちの持っている個性を大事にすることです。人間には個性があり、その個性からくる長所と短所があります。そこで、できるだけ個人の持つ長所を引出し、短所をみんなでカバーできる体制を心掛けています。個々の個性を大事にすることで、会社に一体感が生まれます。それが我が社の強さの一つだと思っているからです。

Q 今後の事業展開については、どのように考えておられますか。

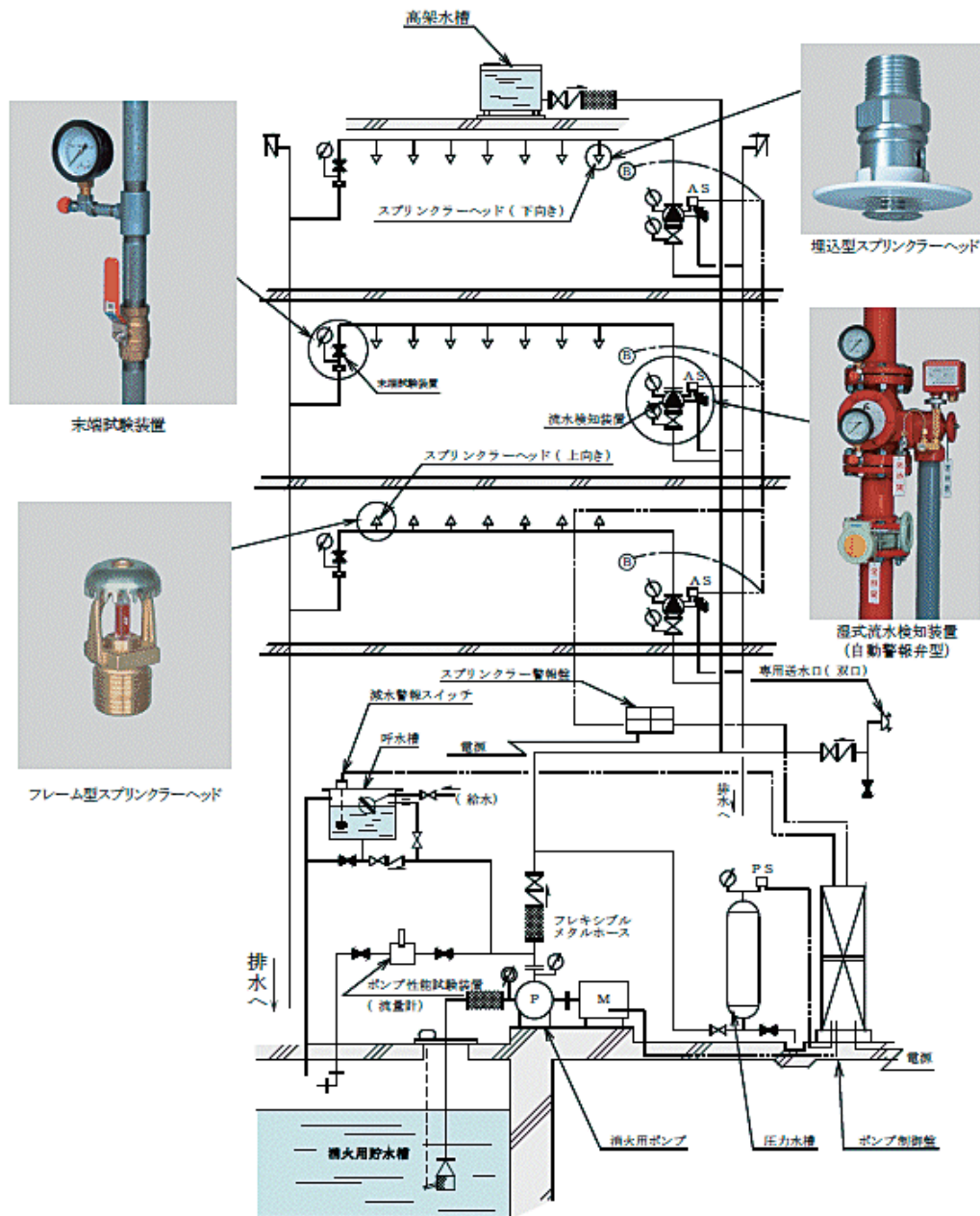
久保社長 最近、火災が多発したグループホームや小規模の病院、また戸建て売りの住宅メーカーなどにも、使ってもらえるスプリンクラーを製造していきたいと思っています。現在、スプリンクラーを設置しているビルは、専用配管にスプリンクラーを取り付けていますが、住宅やグループホームでは、上水道、つまり水道管にスプリンクラーを設置することになり、水圧や水量などが違うので、新たな製品づくりが必要になってきます。そこを克服して、新たなマーケットとして育てていければと考えています。

Q 将来の夢は、如何ですか。

久保社長 スプリンクラー市場において、50%のシェアを目指して頑張っています。この製品の優秀さが分かってもらえば、実現できる夢だと思っています。少しずつですが、手ごたえを感じています。

本日はご多忙なか、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただき、本当にありがとうございました。今後ともますますのご発展を心からお祈り申し上げます。

【聞き手は、(一財)和歌山社会経済研究所 研究部長 高田 朋男】



上の図は、一般的な建物に設置している消防法に則った湿式スプリンクラー設備図です。

図では、各スプリンクラーヘッドはスプリンクラー専用配管上にあつて、各階毎に流水検知装置を設置しています。埋込型スプリンクラーヘッド、フレイム型スプリンクラーヘッドの役割は、速やかに火災を感知し、初期消火に努めます。流水検知装置の役割は、その階のスプリンクラーが発動した時におこる流水を検知し信号を発するものです。その信号を受け、火災報知器等を鳴動させることになります。末端試験装置は、流水検知装置が正常に作動しているかを確認するのに、実際にスプリンクラーを作動させるわけではなく、模擬的に末端試験装置を使用して確認するときに使用します。アイエススプリンクラー株式会社では、スプリンクラーヘッド、流水検知装置、末端試験装置を開発、製造、販売を行っております。